

人生は化学式。

最終回
最終・終わりと高純度アルミ箔



「……カチャ、カチャン……」

年が明けてすぐ、ボクは大学近くの喫茶店に彼女を誘った。客は二人だけで店内にはコーヒークップの音だけが響いていた。

「あのさ……何かこう、あつたかいんだよね」

「え……ああ、そうね。きつとエアコンのコンデンサーの性能を左右する高純度アルミ箔の品質が高いことで、効率的に部屋があたため……」

「いや、そうじゃなくて……純粋にキミと一緒にいるとね」

「あっ……」

「再会した時からずっと決めてたんだ。また突然いなくなる前に、きちんと自分の気持ちをキミに伝えておきたいってね」
彼女は一瞬うつむき、少し下がったメガネを指で上げた。

「……さっきの高純度アルミ箔つてね。電気自動車や自然エネルギーなど、これからの時代に必要なコンデンサーに使われてるの。つまり何が言いたいかつていうとね……私の気持ちも純度が高いから……だから、これからまた、新しく……」

「ボクと付き合ってください！……高純度に」

彼女の顔がみるみる赤くなるとともに、ボクたち二人の長い冬が終わりを告げようとしていた。



化学のチカラで夢を具体化。

**SHOWA
DENKO**

www.sdk.co.jp

